

健康と命の授業「がん教育」の実践

垂井町教育委員会 学校教育課

1 はじめに

近年、疾病構造の変化や高齢社会など、児童生徒をとり巻く社会環境や生活環境が大きく変化しており、健康教育もそれに対応したものであることが求められている。また、高齢化に伴い、生涯のうち二人に一人がかかるとされるがんをめぐる状況を踏まえると、学校において、がん教育を推進することは、子どもたちが、将来健康的に生きていくために、極めて意義あることである。

令和3年度から全面実施となった「中学校学習指導要領(保健体育編)」では、「2 内容」に「(ウ) 生活習慣病などの予防」の一つとして、「イ がんの予防」が新たに追加された。

加えて、がん対策基本法(平成28年12月改正・施行)の下、政府が平成30年3月に策定した「第3期がん対策推進基本計画」には、「がん教育・がんに関する知識の普及啓発」について、下記のとおり記されている。

- ・健康については、子どもの頃から教育を受けることが重要であり、子どもが健康と命の大切さについて学び、自らの健康を適切に管理するとともに、がんに対する正しい知識、がん患者への理解及び命の大切さに対する認識を深めることが大切である。
- ・医師やがん患者・経験者等の外部講師を活用し、子どもに、がんの正しい知識やがん患者・経験者の声を伝えることが重要である。

このように、がん教育は、外部講師を招きながら、がんや他の様々な疾病の予防や望ましい生活習慣の確立等を含めた健康教育のみでなく、がんについての正しい理解と、がん患者やその家族など、がんと向き合う人々に対する共感的な理解を深めるという命や人権について学ぶことも目的としている。

2 本町におけるがん教育の歩み

平成30年度、岐阜県医師会主催のがん教育の講演会を機に、これまで防煙教室で指導いただいている古井病院院長 古井秀彦氏の協力をいただきながら、中学校におけるがん教育の歩み出しを始めた。そして、令和元年度から外部講師を活用したがん教育を始め、今年度で3年目となる。以下に、がん教育の目標とその主な実施状況等を述べる。

(1)がん教育の目標

- ・がんが身近な病気であることや、がんの予防、早期発見・検診等について関心をもち、正しい知識を身に付け、適切に対処できる実践力を育成する。また、がんを通じて様々な病気についても理解を深め、健康の保持増進に資する。
- ・がんについて学ぶことや、がんと向き合う人々と触れ合うことを通じて、自他の健康と命の大切さに気づき、自己の在り方や生き方を考え、共に生きる社会づくりを目指す態度を育成する。

(2)令和元年度の実施状況

対象学年	第2学年
時間数	3時間
実施形態	1～2時間目:学級単位 3時間目:学年単位
主な内容	1～2時間目:教科担任による授業 ・「がんという疾病に対する理解」「がんの要因の理解」「がんの予防」「健康診断やがん検診などの早期発見」等について、文部科学省作成のスライド「がん教育推進のための教材」を用いて学習した。 3時間目:外部講師を活用した授業 ・映像資料「日本対がん協会『よくわかる!がんの授業～はじめに～』(1分05秒)」を使用するとともに、学校医とがん経験者(齋藤 智恵美氏)を招いて、自分の家族や自分ががんと診断されたとき、どのようにすればいいのかについて学んだ。



【齋藤氏が自らの経験を生徒の前で話している様子】

(3) 令和2年度の実施状況

対象学年	第2学年
時間数	2時間
実施形態	1時間目:学級単位 2時間目:学年単位
主な内容	<p>1時間目:教科担任による授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容は令和元年度と同様であるが、内容を精選し1時間に短縮した。 <p>2時間目:外部講師を活用した授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映像資料「文部科学省『がんとともに生きる』エピソードIがん経験者(長谷川さん)」を使用するとともに、学校医を招いて、たとえ自分が「がん」になっても自分らしく生きようしたり、身近な人が「がん患者」になったとしても、その人の立場に立って温かく接しようとする事について学んだ。

(4) 令和3年度の実施状況

対象学年	第2学年
時間数	2時間
実施形態	1時間目:学級単位 2時間目:学年単位
主な内容	<p>1時間目:教科担任による授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度と同様。 <p>2時間目:外部講師を活用した授業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度と同様。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・不破中学校が「がん教育総合支援事業」のモデル授業校の指定を受けた。 ・他の教科や領域との関連を明らかにした「がん教育第2時(本時)と他の教育活動との関連」及び「がん教育に係る題材配列表」を作成した。



【学校医と教科担任がやり取りしながら授業をする様子】

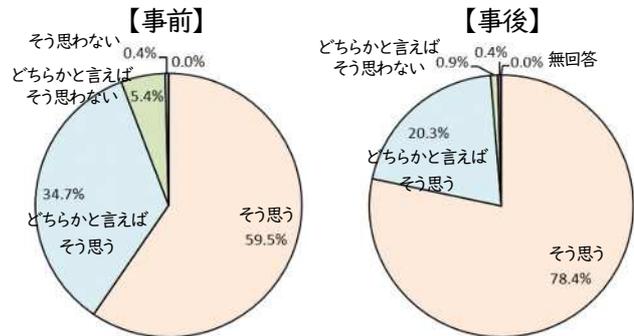
(5) 令和3年度がん教育第2時を終えて

① 生徒の感想

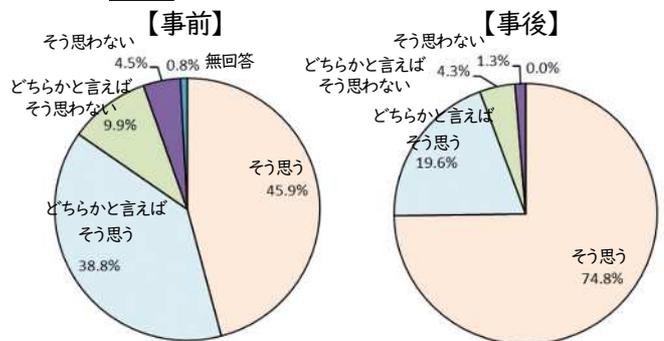
私は、がんにならないために、少しでもリスクを減らせるように、生活習慣を見直したいです。でも、原因が分からないがんもあるから、その時は受け入れるしかないと思いました。がん患者とは、できるだけ穏やかで普通の日常を送れるように、支えることが大切だと思いました。二人に一人ががんになってしまうので、他人事ではないと痛感しました。

② 事前事後のアンケート結果(一部抜粋)

質問:日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う



質問:がんと健康について、まずは身近な家族から話そうと思う



3 成果と課題

- 外部講師から直接話を聞くことで、自分の生活習慣を見つめ直したり、がん検診を通して早期発見・早期治療を心がけたりするなど、がんを自分事として捉えている生徒が多く見られた。
- がん教育の実施前と後に、教育委員会と学校がそれぞれ行うことをフロー図にまとめることで、どこでも、だれでも、無理なく実施することができる体制を整えることができた。
- 生徒が、命の大切さやがん患者に対する考えなどを、自分の言葉で表現したり伝え合ったりする場をさらに確保する必要がある。